

第1回協議会での主な意見

現状と課題

地域全体での子ども の見守りにについて

- ・地域での見守りについて、みんなが顔を知っている中で見守ってもらうことが大切である。
- ・課題を学校と地域が共有していくことが大切である。
- ・地域の子どもは地域で育てるというコアがあり、学校にもコアがある。両方のコアが協働しながら地域づくりに参画していく。これからの地域づくりにとって大切な考え方である。
- ・いじめを行う背景に、本人の自尊感情が低いことがある。
- ・起こったことに対して連絡してもらっただけではなく、むしろ未然防止という健全育成の部分で地域は大きく関わっていただく必要がある。

- 地域での活動が、子どもの自尊感情の向上につながり、いじめの未然防止につながるという意味付けや価値付けが十分でない。
- いじめ問題を地域と学校が共有することに対する困難さがある。
- 地域ぐるみでのいじめの未然防止をどのように盛り上げていくか。

相談支援体制について

- ・今後の心の教育センターを考えていくには、基本的な理念が要るだろう。マズローの欲求階層説でいうところの安心・安全の欲求等を満たし、子どもたちへの自己実現への支援をすることが大切ではないか。
- ・ワンストップというのは、機関同士の切れ目のなさ、子どもの成長、発達に対する切れ目ない対応の二つの側面がある。
- ・就学前や、20歳過ぎた方からも相談がある。医療とも連携しながら、トータルで自立まで支援できるような将来像も求められる。業務やハード面の整備も含めて、心の教育センターのゴールイメージをもつとよい。
- ・子ども側から見た切れ目のないワンストップ&トータルな支援体制が必要である。その支援体制の中において、心の教育センターの果たすべき役割とは何か。
- ・いじめの重大事態の捉え方、認知の仕方等について、高知県の実態に合わせて検討いただく時期に来ている。

- ワンストップ&トータルな相談支援体制の構築を目指して、スタートは切れた。
- ハード面の整備についても計画は進行中である。
- 子どもの側から見たワンストップ&トータルな相談支援体制の全体像の中で、心の教育センターの役割を明確にした将来像を描くことが必要である。
- いじめの重大事態に対する認知の考え方、学校現場への浸透のさせ方をどうするか。

ネット問題について

- ・他県のいろんな先進事例を調査し、何が改善できるのかについて、報告させていただく。
- ・他県の事例も踏まえて方向性を検討し、その結果を報告いただきたい。

- ネットいじめを含むネット問題の解消を目指して、各学校での取組を推進するために児童会・生徒会交流集会を開催して、各学校の取組の方向付けを行った。
- 兵庫県も含めて、他県の取組で何が改善されたか。

- ・SNSに関するネット問題で、その匿名性が問題になる。利用者個人の特定について可能なのか。
- ・次回、SNSの匿名性について、県警から報告をお願いします。
- ・SNSの匿名性の問題は、学校等での研修内容にも関わってくる。

- 一般的には、ネット上での匿名性はないという研修を現在行っている。
- ネット上での匿名性等についての県警の対応はどのように行っているか。